

## 1. 日光皮膚炎, 日焼け solar dermatitis, sunburn

過度の日光曝露（主としてUVBが原因）によって紅斑, 水疱が形成される. 病理所見では, sunburn cell（角化細胞のアポトーシスによる）の出現, 真皮血管周囲の浮腫, 炎症細胞浸潤, 壊死, 表皮下水疱などをみる. 日光曝露の数時間後に紅斑が生じ, 次第に浮腫状となる（図 13.15）. 発症後 12～24 時間をピークとして軽快し, 数日で落屑や色素沈着, ときには色素脱失を残して治癒する. 治療には冷湿布やステロイド外用薬, 水疱形成が生じた際には第Ⅱ度熱傷に準じた治療が必要である. 予防にはサンスクリーンの塗布を行う.

## 2. 光老化 photoaging

日光ないし紫外線の慢性曝露により生じた, 健常人の皮膚変化の総称. 皺の形成, 日光性弾力線維症, 項部菱形皮膚（18章参照）, 老人性色素斑, Favre-Racouchot症候群などが含まれる.

## 3. 光線過敏症 photosensitivity ★

同義語：光線過敏性皮膚症（photosensitive dermatosis）

### Essence

- 日光ないし紫外線曝露によって発生あるいは悪化する皮膚疾患の総称.
- 外因性（薬剤など, 表 13.5）と内因性（遺伝疾患や代謝疾患など）がある.
- 外因性で発症する機序は, 薬剤の直接作用によるもの（光毒性皮膚炎）と免疫学的機序を介するもの（光アレルギー性皮膚炎）に大別.
- 内因性で発症する疾患には色素性乾皮症など.

### 病因

外因性の化学物質によるものと, 内因性の2つに分類される. 内因性に光線過敏性皮膚症を生じる疾患については, それぞれ別項を参照されたい. 本項目では, 外因性によって生じるものについて解説する.

外因性の光線過敏症は, 体内に取り込まれて皮膚に到達し, 光線によって励起される物質〔クロモフォア（chromophore）〕が, 日光や紫外線（UVA であることが多い）を受けて励起されることにより, 皮膚に炎症を生じたものである. クロモフォアの皮膚への到達には, 皮膚外表を経由するもの（化粧水, 香

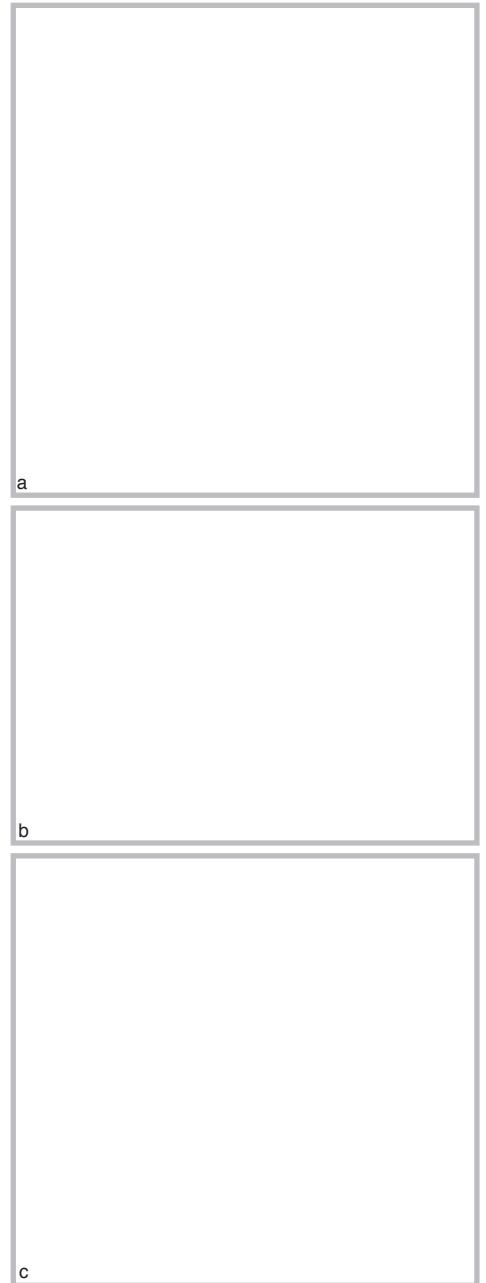


図 13.15 日光皮膚炎, 日焼け (solar dermatitis, sunburn)  
 a: 海水浴中に浜辺で3時間寝てしまったために生じた例. 著明な水疱形成も認める. 第Ⅰ～Ⅱ度熱傷と同様の状態. b, c: 水着に覆われていた部位と露出部位の違いが明瞭な点に注目.